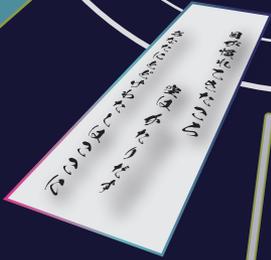
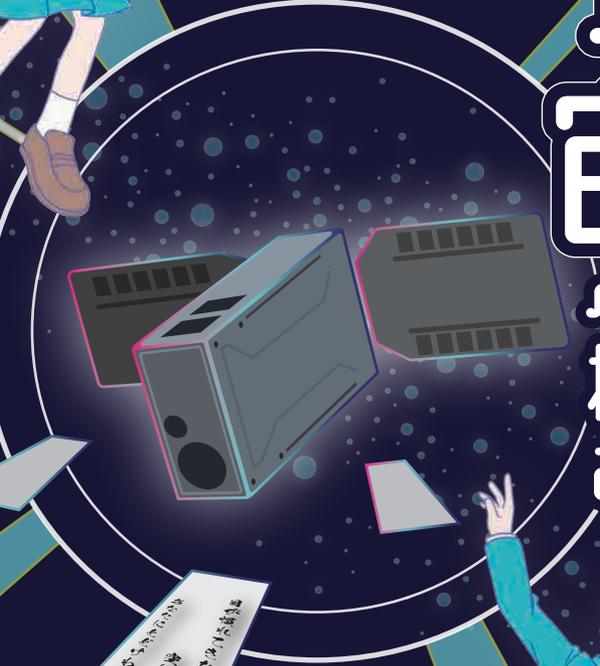


花巻の高校生

宇宙へ挑む。

短歌で繋がる世界



 SPACE VALUE

 SpaceBD

目次

1	イントロダクション	P01
2	宇宙を知るための学び	P10
3	宇宙とつながる実践	P18
4	「YODAKA」を介して生まれた短歌	P36
5	願いを込めた UCHUDARUMA	P50
6	あとがき	P54

はじめに

宇宙に想いを馳せた宮沢賢治が花巻に誕生してから約125年もの時を経て、花巻の高校生たちが「宇宙」を通して「学ぶ力」と「人間力」を育むプロジェクトが2021年にスタートしました。

はじめに、花巻で生まれ育った起業家であり、合同会社SPACE VALUEの代表社員安藤修一さんの「宇宙の力で花巻を盛り上げたい」という想い。

宇宙商社®であるSpace BD株式会社とタッグを組み、母校の花巻北高等学校へ呼びかけ、数々の宇宙体験を高校生たちへ提供してきました。

数々の挑戦に臨んだ花巻の高校生たち。彼らのアイデアで実現した人工衛星を使った「短歌ミッション」では大人たちの想像をはるかに超える成果が生まれました。4年間密着したその挑戦と裏側を支えた関係者の想いを紹介します。



岩手県

花巻市



岩手県中部に広がる花巻市は、人口約9万人、面積は900平方キロメートルを超える広大な土地を持つ街です。山と川、そしてどこまでも続く空が、日常の風景としてそこにあります。作物が育ちやすい大地に恵まれ、花巻では古くから農業が営まれてきました。

花巻が生んだ詩人であり童話作家の宮沢賢治は、この地に生まれ、その生涯の多くを花巻で過ごしました。また、詩人・彫刻家の高村光太郎もこの地に深く関わり、花巻の自然の中で多くの時間を過ごしています。彼らの作品や思想の形成には、「視線を上げれば、空はやがて宇宙へとつながっていく」そんな花巻の風土が深く関わっています。

その空の下で育った高校生たちは、この花巻で、自分たちの手で未知の世界へ挑むことを選びました。広い大地の片隅から始まった、小さくて確かな挑戦の記録が、ここにあります。

プロジェクトの舞台、花巻北高等学校について

花巻北高等学校は昭和6年に開校し、これまでの卒業生数は2万2千名を超えています。文武両道を実践し、令和13年度に迎える創立100周年に向けて、「100年生きる君たちが花高100年の学びをつくる」のキャッチフレーズのもと、学ぶ力の育成、人間力の育成を進め、教師主導から生徒主体の学びへと転換を図っています。

令和3年度からは合同会社SPACE VALUEとSpace BD株式会社との協力により「花高スペースプロジェクト」を実施し、人工衛星の開発から運用までを体験する取り組みや「宇宙飛行士に必要なスキル」を学ぶワークショップ等を通して、生徒は、広い視野に立ち、未知に挑戦する力を養いながら非認知能力を高め、自身のキャリアを考えるきっかけとなっています。令和6年度には人工衛星「YODAKA」を打上げ、衛星との通信を活用して短歌を作り出すミッションに全校で取り組み、多くのメディアで取り上げられました。

また、スペースプロジェクトとともに行っている総合的な探究の時間「HEXACT(ハクト)」では、生徒が研究課題を設定して、校外学習や発表、論文作成等を行い、課題発見・解決力、情報収集・分析力、コミュニケーション力、論理的構成力、表現力等を身につけており、令和5年度にはキャリア教育優良学校として文部科学大臣表彰を受けました。生徒は部活動にも熱心に取り組んでおり、本校の伝統を継承しながら、社会に貢献できる人材として求められる資質や能力を身につけられるよう取り組んでいます。

花巻北高等学校 第37代校長 佐々木信明先生

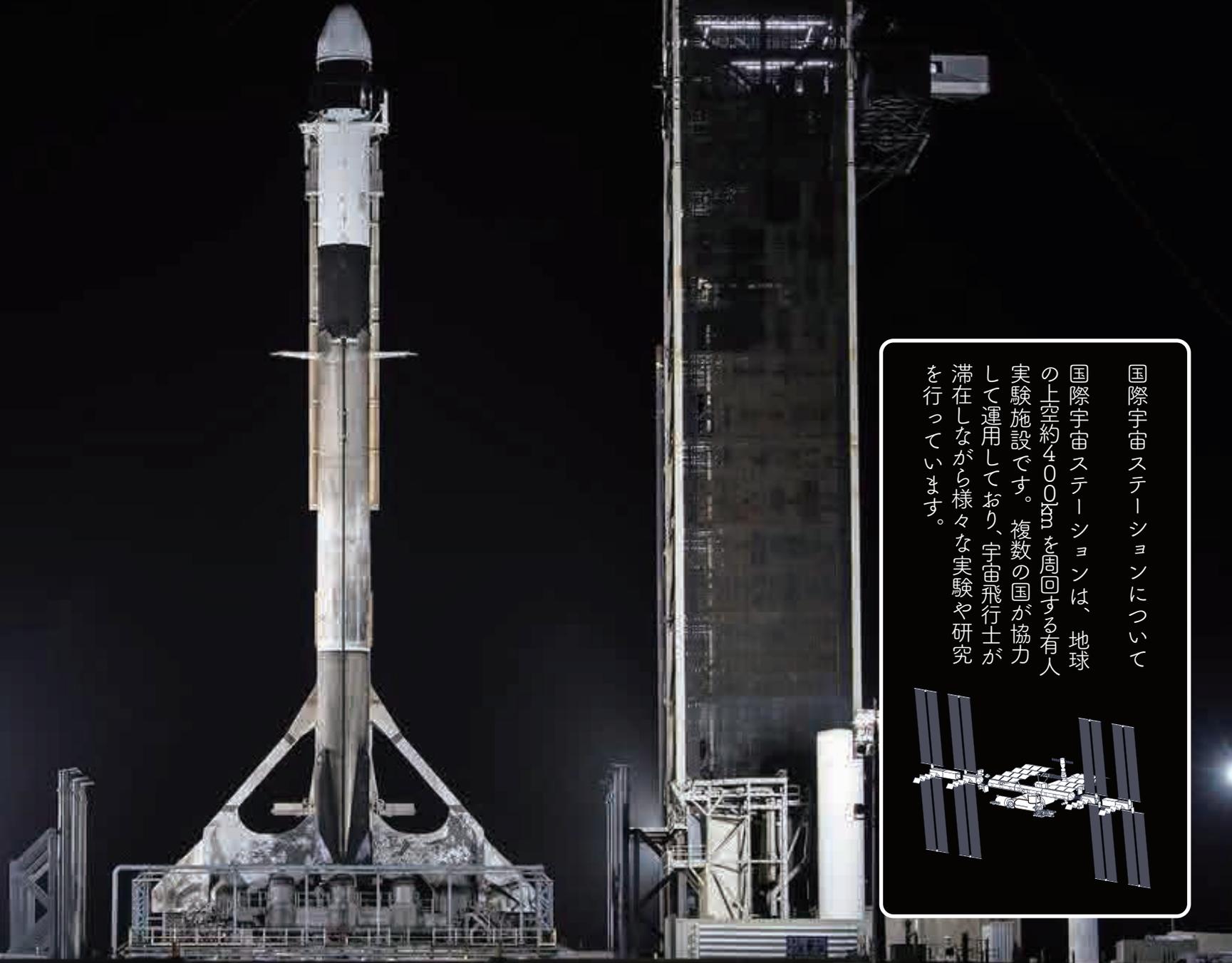
花巻北高等学校 第35代校長
川村俊彦先生 インタビュー

突然のアポイントでSPACE VALUEの安藤さんとSpace BDの方々と会い、プレゼンを受けた段階で「これだ」と思いました。

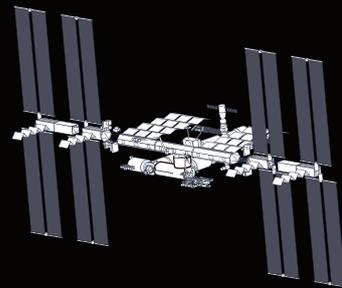
「学ぶ力の育成」「人間力の育成」を目指していたところに、受け身ではなく生徒が主体的に学べるツールとしてドンピシャでした。中でも「宇宙飛行士に求められるものは、これから生きる人間に求められるものです」と言われたことが心に響き、プレゼンを受けている途中から「もう、これだな」と感じていました。それからの数ヶ月で、以降2年間のスケジュールを決めたところまでが私の仕事となりました。

第35代校長
川村俊彦先生

Dragon CRS SpX-31
YODAKA Tanka Mission
Lift off: November 4, 2024, 9:29 PM EST
© NASA



国際宇宙ステーションについて
国際宇宙ステーションは、地球
の上空約400kmを周回する有人
実験施設です。複数の国が協力
して運用しており、宇宙飛行士が
滞在しながら様々な実験や研究
を行っています。



高校生の挑戦。花巻の人工衛星「YODAKA」を宇宙へ

花巻北高校の全校生徒で「人工衛星」を使ったミッションを考案。184のアイデアから発表と投票を経て、花巻を舞台にした独創的な「短歌ミッション」が選ばれました。

ミッションを実現するため、超小型人工衛星の開発を手掛ける株式会社アークエッジ・スペースの協力により、花巻の人工衛星「YODAKA」が誕生しました。

「YODAKA」は、2024年11月にアメリカのケネディ宇宙センターから、SpaceXのロケット「Falcon 9」で宇宙へと打上げられ、2024年12月に国際宇宙ステーション (ISS) から衛星放出機構「J-SSOD」で宇宙空間へと放出されました。

衛星開発とともに歩んだ高校生たちの衛星開発体験

本プロジェクトでは、実際の衛星開発の流れ（上段）に沿って、様々な体験を段階的に行いました（下段）。生徒たちは、衛星開発を追体験するワークショップを通して全体像を理解し、実際の開発現場を見学。さらに、人工衛星の打上げや放出を見守り、最後には自らの手でミッションの実行に挑戦しました。

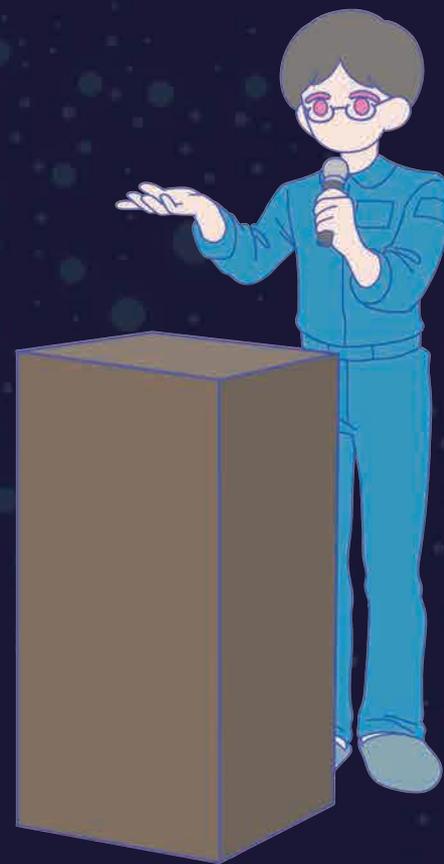
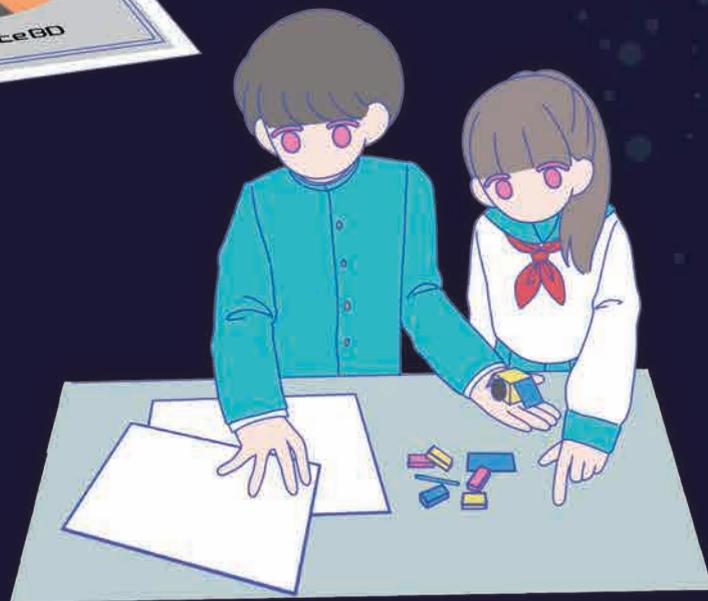
衛星開発の流れ



衛星開発体験



宇宙を
知るための
学び





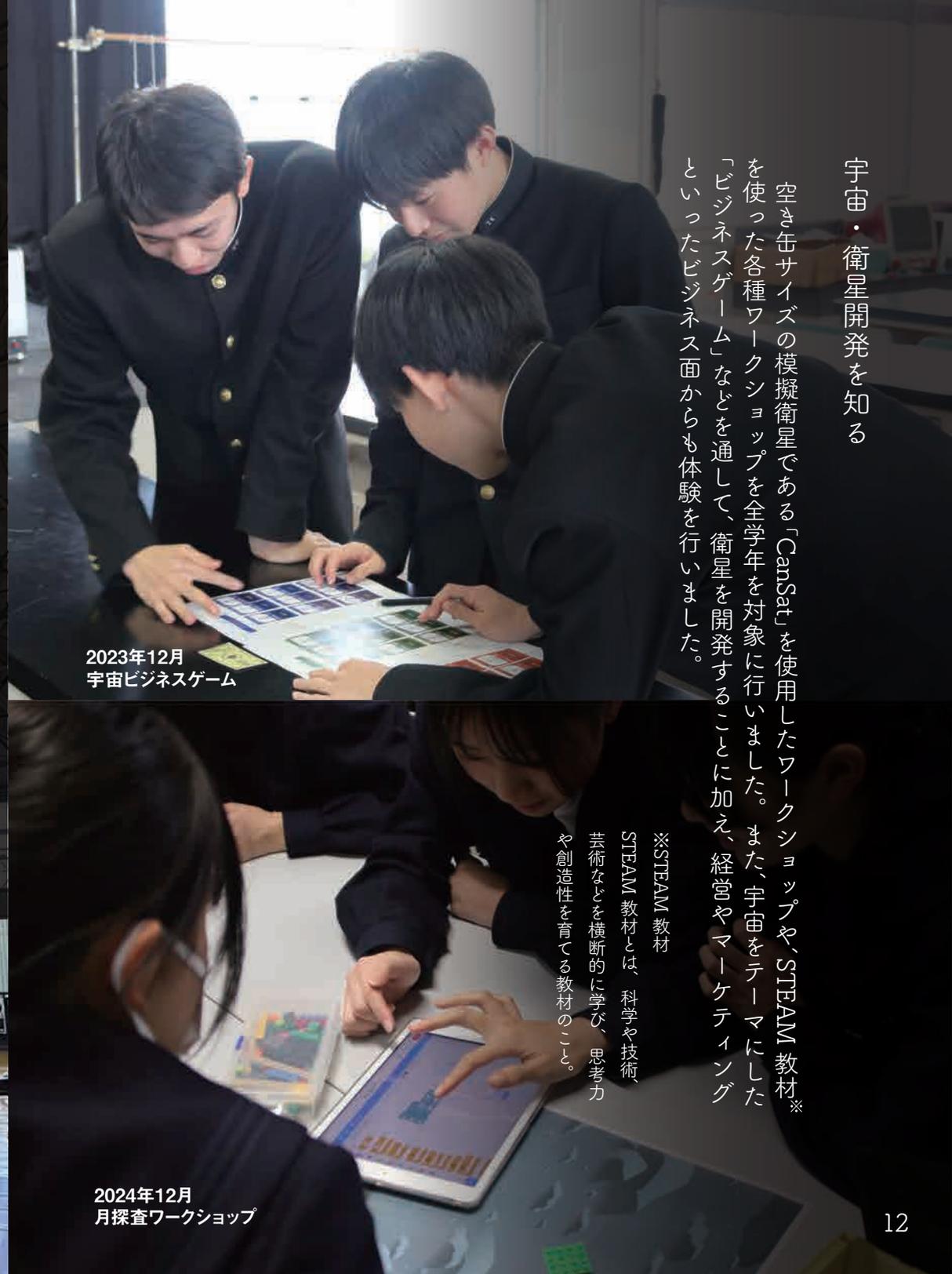
CanSatワークショップ

空を缶サイズの模擬人工衛星「CanSat」をチームで設計・製作し、落下実験を通して実際の衛星開発プロセスを追体験しました。限られた時間の中で仮説検証と意思決定を重ね、主体性やチームワーク、課題解決力などの非認知能力を育みました。

宇宙・衛星開発を知る

空を缶サイズの模擬衛星である「CanSat」を使用したワークショップや、STEAM教材※を使った各種ワークショップを全学年を対象に行いました。また、宇宙をテーマにした「ビジネスゲーム」などを通して、衛星を開発することに加え、経営やマーケティングといったビジネス面からも体験を行いました。

2023年12月
宇宙ビジネスゲーム



※STEAM教材
STEAM教材とは、科学や技術、芸術などを横断的に学び、思考力や創造性を育てる教材のこと。

2024年12月
月探査ワークショップ

宇宙の仕事を知る

宇宙業界・宇宙開発に関わる多様なゲストによる講演や、本プロジェクトの企画・運営を担うSpace BD社員と対話するプログラムを実施しました。

現在、社会人として活躍する方々の日常の悩みや進路選択に向き合った、学生時代の経験を聞き、自身の進路やキャリアを主体的に考えるきっかけとなりました。

2023年9月
学習院大学法学部教授
小塚荘一郎先生講演会

学習院大学法学部教授小塚荘一郎先生から、宇宙開発が進む中で「法学」がどのような意味を持つのか、宇宙での法律はどのような整理すべきかなどお話しいただき、理系や文系にとらわれない宇宙の関わり方を知る機会となりました。

2022年9月
株式会社アークエッジ・スペース
代表取締役CEO 福代 孝良さん講演会

本プロジェクトにおいて、人工衛星の開発を担っているアークエッジ・スペースの代表取締役福代孝良さんに、学生時代のアフリカの経験や、そこから今のビジネスに至る経緯についてお話しいただき、ワールドワイドな視点を得る機会となりました。

本プロジェクトの企画運営を行うSpace BD社員による学生時代の経験や進路選択について講義が行われ、今取り組んでいる経験が、将来思わぬ形で活かされることや、分野にとらわれずさまざまなことに挑戦することの重要性が伝えられました。生徒たちは、現在の選択や経験を未来を見据えた長い時間軸で捉えることの大切さについて考えました。

2022年～2024年
Space BD社員によるキャリア講演会

JAXA 宇宙飛行士の金井宣茂さんに、学生時代に考えていたこと、宇宙飛行士としての経験、宇宙規模の広い視野を手に入れる方法等のお話をいただき、キャリア選択の幅広い可能性を感じられる機会となりました。

2024年2月
JAXA 金井宇宙飛行士講演会



第36代校長
須川和紀先生

宇宙・衛星開発の現場を見る

「YODAKA」の開発・製造を担当するアークエッジ・スペースの衛星の製造現場の見学では、自分たちの考案したミッションを搭載した人工衛星がモノになっていく高揚感を味わいました。

JAXA 筑波宇宙センターの見学では、日本の宇宙開発の歴史を学び、宇宙開発が多くの人の仕事によって支えられていることを実感しました。Space BDのオフィス見学では、宇宙ビジネスについて社員とディスカッションし、宇宙業界で働くことを身近に感じる機会となりました。

2023年3月
筑波宇宙センター訪問の様子



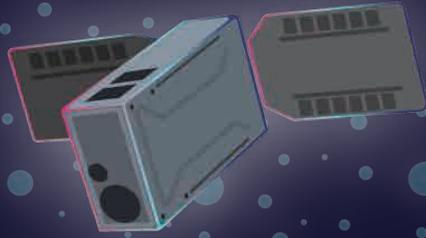
花巻北高等学校 第36代校長
須川和紀先生 インタビュー

川村前校長からこのプロジェクトを引き継ぐにあたり、全校生徒が関わるプロジェクトであることや、世界を巻き込んだ人工衛星を使ったミッション検討実施に公立高校が関わること、希望者が医大に、協力いただいた科学実験プログラム参加やつくば、東京大学、アークエッジ・スペースなどへの訪問、宇宙科学技術連合講演会での発表など、新たな世界を体験できることを興味深く感じました。

「宇宙に一番近い高校生」として横断的な学びを経験し、非認知能力や起業家精神などの育成や挑戦と失敗を繰り返しながら実践的な課題設定能力や意思決定力を育むことができたと思います。

「熱狂＝ワクワク」「逆境＝Challenge」「越境＝Change」という成長する一つの機会を生かし、自分の未知の領域に飛び出すことを目指しました。

宇宙と
つながる
実践





審査員による質疑応答の様子



予選会を勝ち抜いたチームによるミッション発表の様子①



予選会を勝ち抜いたチームによるミッション発表の様子②



ミッションを考える
 生徒たちは「花巻を舞台に、人工衛星を使って何ができるのか」という問いから、ミッション検討をスタートしました。
 なぜそのミッションに挑戦するのかという意義を考えながら、衛星の特性や制約を踏まえて実現可能性を検討し、卒業後も後輩に引き継がれていくミッションとなるようアイデアを検討しました。

2022年4月
 ミッション決定会 予選の様子

総勢約550名の生徒による計184チームが参加し、予選を勝ち抜いた8チームが、2022年4月25日のミッション決定会のステージでプレゼンテーションしました。各チームによるプレゼンテーションでは、聴衆に投げかけるような発表や、入念に下調べしたミッション案に聞き入るような発表があり、質疑応答も盛況。花巻の地場産業に貢献するもの、花巻内外との交流を図るもの、アート・芸術に関するものなど、様々なミッションのアイデアがあり、審査員による審判票と、全校生徒による投票でミッションを決定しました。



ミッション決定会 表彰式の様子



短歌の上の句(5・7・5)
下の句(7・7)を国内のみならず、
世界から募り、それぞれを花巻市内
または国内の決まった場所から人工
衛星「YODAKA」へ送信し、短歌
の完成をとおして、花巻とその他
の地域との交流を図る。

選び抜かれた「短歌ミッション」

ミッションに込められた想い

花巻北高校の生徒が花巻市外や
全国の人々と交流しながら、花巻
の魅力を発信し、地域の認知度
向上につなげることを目的として
提案されました。

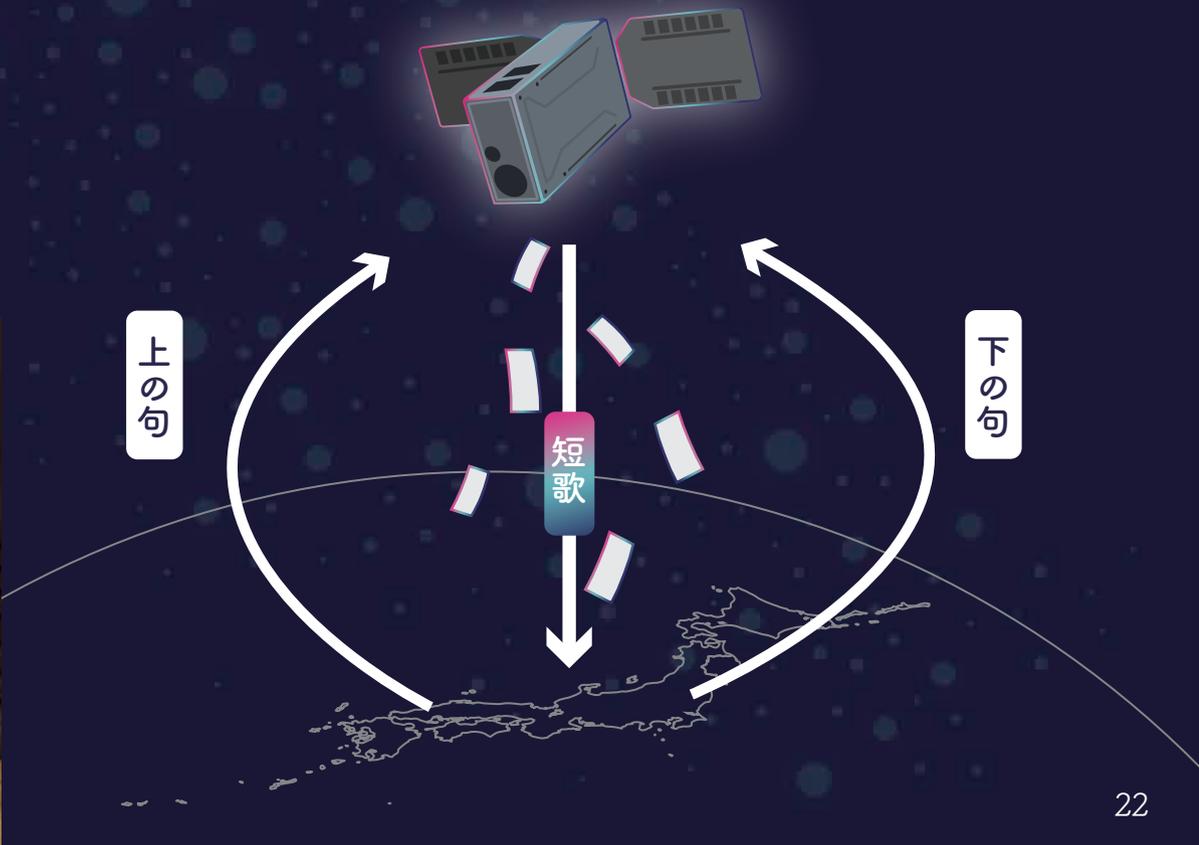
東日本大震災からの復興過程
で行われた、言葉や文化を通じて
人と人をつなぐ取り組みを参考に
しており、短歌という日本の伝統
文化を、時代を超えて宇宙を介し、
世界中の人々と共有することに、
本ミッションならではの意義と魅力
があると、審査員や全校生徒から
多くの共感を得ました。



「短歌ミッション」提案生徒と審査員

上の句

下の句



衛星名「YODAKA」について

人工衛星の名前は、全校生徒から寄せられた293件の応募の中から選ばれました。まず、教員とプロジェクト関係者により13案が選出され、その後、全校生徒による投票を実施。こうして、人工衛星の名前は「YODAKA」に決定しました。

「YODAKA」は、宮沢賢治の作品『よだかの星』に由来しています。衛星が機能する限り輝き続けてほしいという願いと、花巻と世界をつなぐ存在になってほしいという願いが、この名前に込められています。

株式会社アークエッジ・スペースからのメッセージ

アークエッジ・スペースはYODAKAの設計・開発・運用を担当しました。花巻北高校の生徒の皆様が、東京の弊社オフィスで衛星機器の組立を見学された際の、あの真剣な眼差しが今も心に残っています。

宇宙空間から400句を超える短歌が地上へ届いたことは、IoT通信技術の実証としても、人と人をつなぐ新たな宇宙利用の形としても大きな成果でした。宮沢賢治のふるさと花巻から宇宙を巡って想いが届くこの活動が、これからも地域の皆様や未来を担う子供たちに、夢と可能性を広げていくことを願っています。

【衛星の概要】

衛星名:YODAKA (AE1b)

サイズ: 100mm×226.3mm×366mm

質量: 8.6 kg

主なミッション:

Store and Forward (S & F) による通信(「短歌ミッション」を含む)

ハイパースペクトルカメラによる地球観測



2023年10月
アークエッジ・スペース訪問の様子②



2023年10月
アークエッジ・スペース訪問の様子①

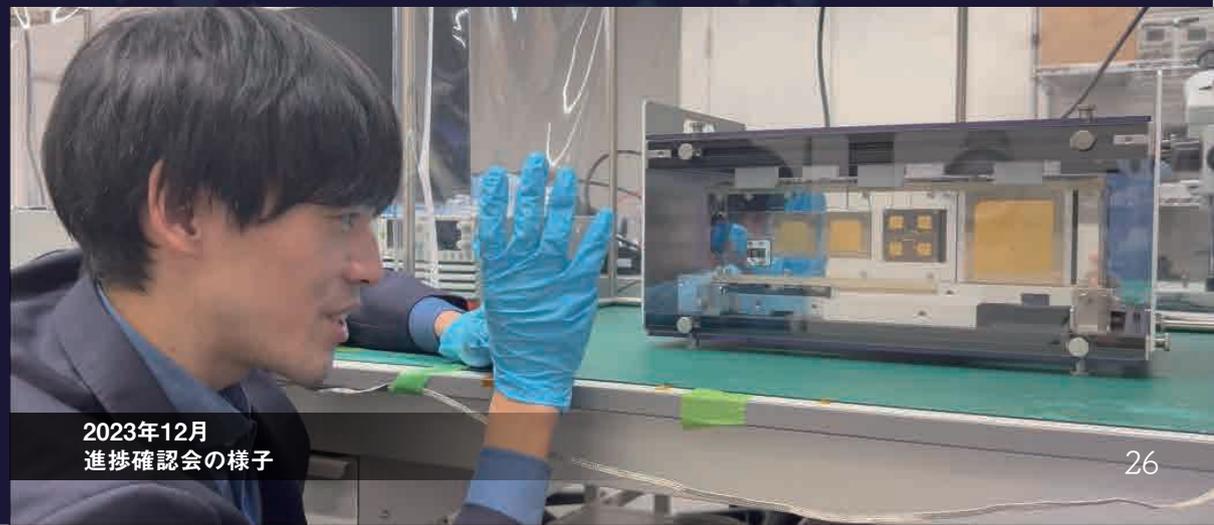


株式会社アークエッジ・スペースについて

アークエッジ・スペースは、超小型衛星コンステレーションの企画・設計から量産化、運用まで総合的なソリューション提供を行う宇宙スタートアップ企業です。

"衛星を通じて、人々により安全で豊かな未来を"実現することを目指し、今後は地球観測、船舶向け衛星通信（衛星VDES）、光通信、低軌道衛星測位等に対応した超小型衛星コンステレーションの構築を実現するとともに、月面活動にむけた衛星インフラ構築や深宇宙探査など、多様なミッションニーズに対応する宇宙の開発利用を推進します。

衛星の開発・製造過程を見守る
「YODAKA」は、開発から製造まで、約2年もの年月がかけられています。その間、生徒たちは計7回の進捗確認会に参加し、開発・製造の過程を継続的に見守りました。開発・製造現場から報告される進捗状況を聞き、質疑応答を重ねることで、衛星開発を当事者の視点で追体験する機会となりました。



2023年12月
進捗確認会の様子

2024年9月
通信機制作のレクチャーを受けている様子



通信機を製作する

2024年9月、有志生徒20名(チーム名: 銀河の筆)が、アークエッジ・スペースの指導のもと、「YODAKA」へ句を送信するための通信機を製作しました。自分たちの手で組み立てた通信機を使ってミッションに挑むことで、宇宙開発を「見る」だけでなく、「する」体験となりました。

2024年9月
通信機制作の様子



2024年6月
引渡しの際の検査の様子



衛星の引渡し

2024年6月、花巻北高校の代表生徒2名が「JAXA 筑波宇宙センター」を訪れ、「YODAKA」の引渡しに立ち会いました。

国際宇宙ステーションから放出する際の安全性を確認するため、外観検査が行われます。生徒たちはその検査の現場に同席し、「JAXA職員と衛星開発関係者が安全面について議論を交わす、緊張感に包まれた空間に立ち会いました。

衛星を宇宙へ送り出す最終段階に立ち会えたことは、衛星開発を追体験してきた生徒にとって、忘れられない貴重な経験となりました。



打上げを見守る

日本時間2024年11月4日11時29分、「YODAKA」を搭載したSpaceXのロケットFalcon 9が、アメリカ・ケネディ宇宙センターから国際宇宙ステーション(ISS)へ向けて打上げられました。

当日は全校生徒で打上げ応援会を開催し、公式YouTubeのライブ配信を見ながらその瞬間を見守りました。会場ではSpaceBDのエンジニアから打上げ方法やロケットの仕組みについて解説を受けながら視聴し、まるで物語の世界が現実になったかのような驚きと興奮に包まれました。打上げ成功の瞬間には大きな歓声上がり、約10分後には切り離された第一段エンジンが地上に着地する様子も確認でき、忘れられない体験となりました。



バリー・ウィルモア NASA 宇宙飛行士からのメッセージ

It was a successful deploy.

Congratulations to ArcEdge Space and all the kids at high school students there at Hanamaki. Japan are excited, and I think for those that aren't in the know, this satellite will be actually composing a Tanka which is a classic Japanese poem.

There are a couple of them and will be beaming those back to Earth.

So congratulations to all.

衛星の放出は成功しました。

ArcEdge Space の皆さん、そして日本・花巻の高校生の皆さん、おめでとうございます。この衛星は、日本の伝統的な詩である『短歌』を作り、その短歌を地球に送るものです。

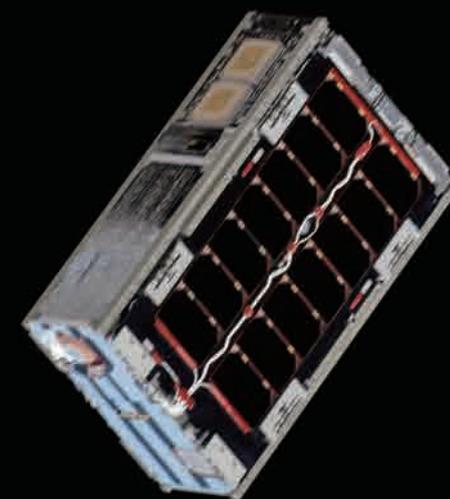
とても素晴らしい取り組みだと思います。

本当におめでとうございます。

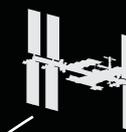
2024年12月
衛星放出を喜ぶ生徒の様子



2024年12月
国際宇宙ステーションから衛星が放出される様子



ISS より
衛星を放出



衛星を
ロケットで輸送



© JAXA/NASA

放出を応援する

ロケットによって国際宇宙ステーション (ISS) へ届けられた「YODAKA」は、日本時間2024年12月9日17時15分、日本実験棟「きぼう」に搭載された衛星放出機構「J-SSOD」を用いて宇宙空間へ放出されました。放出の際には、花巻北高校の生徒が JAXA フライトディレクターからの「Are you ready?」の問いかけに「Yes!」「YODAKA Go!!」と大きな声で花巻からエールを送りました。

こうして花巻の思いを乗せて「YODAKA」の宇宙の旅がスタートしました。

短歌を集める

「YODAKA」に送る句は、下の句は花巻北高校の生徒から、上の句は一般から募集を行いました。
上の句の一般募集のため、ポスターを作成し、チーム銀河の筆のメンバーで市内の各小中学校や、市内で人の目に多く触れそうな施設を中心に掲示をお願いして回りました。



(上の句募集用ポスター)

募集結果

○募集期間
2024年10月22日～

12月25日

○上の句 413句

〔国内〕北海道、青森、秋田、山形、岩手、福島、新潟、宮城、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、長野、静岡、岐阜、愛知、滋賀、大阪、兵庫、京都、香川、愛媛、鳥取、岡山、広島、山口、福岡、大分、佐賀、鹿児島、沖縄
〔海外〕中国上海、アメリカ、パナマ、オーストラリア、ラトビア

○下の句 430句

花巻北高校の生徒より募集

衛星と通信する

短歌ミッションの実行として、チーム銀河の筆のメンバーが、無線従事者であるSpace BDのサポートのもと、「YODAKA」のアップリンク（データの送信）を行いました。

通信機を使い、短歌の上の句と下の句のデータを衛星に送り出しました。通信機向きや仰角を意識したり、日本の上空を通る時間が限られている「YODAKA」に向けて、1回1回丁寧に操作を進めました。

その場では結果がすぐに分らないため、うまく届いているのか内心ドキドキしながら作業を終えましたが、後に通信成功を知り、自分たちの句が宇宙へ届いたことに安堵の表情をみせていました。

2025年1月
「YODAKA」にアップリンクの様子





2025年2月
短歌発表会 表彰式の様子

短歌発表会
人工衛星「YODAKA」を介して
生まれた短歌は、計307首。
衛星の姿勢や通信状況、送信の
タイミングなど、さまざまな条件が
重なり合い、宇宙空間にたどり着いた
順番によって、上の句と下の句が
一首ずつ組み合わされました。
人の手では決して再現できな
い、その瞬間、この偶然が生んだ短
歌の数々は、まさに一期一会の作
品です。

2025年2月20日、短歌発表会
では、完成した短歌から、歌人の
木下龍也さんに受賞作を選定した。だ
くとともに、プロジェクト関係者や
花巻北高校の生徒による選出も行
いました。

本発表会は、人工衛星を用いた
「短歌ミッション」の成果を共有し、この
挑戦を締めくくる場となりました。

短歌発表会



2025年2月
短歌発表会 集合写真

短歌発表

一席

上の句 東京都 汐見りら
下の句 1年生 S・S

目が慣れてきたところ空は語りだす
あなたにとどけわたしはここに

「空は」言葉を持たないから、星の光やその配置によって様々な物語を人間に「語り」かける。人間はそれを耳ではなく、目で受け取る。我々は人工的な強い光に慣れているから、すぐには「空」の言葉を受け取れないが、見上げていけばそのうち慣れて受け取ることができる。その言葉が「わたしはここに」。たったひとりのあなたに向けられた、「わたしはここに」いる、というメッセージ。上句のレトリック、そして下句のやわらかさとあなたかき。そのバランスが絶妙で「空」を見上げることやその先の宇宙に思いを馳せることの大切さをいつでも思い出せる一首になっています。(選定・木下)

木下さんからのメッセージ

地上から人工衛星「YODAKA」へ
上句と下句を別々に送信し、偶然の
組み合わせで短歌をつくる。

このプロジェクトの選考をしてほしい、
とご連絡をいただいたときの心の震え
を今でもよく覚えていて。宇宙で
生まれる一首。一体どんな歌になるん
だろう。溢れるロマンと不安の間で
僕は揺れていた。けれど、完成した
作品を読んで不安の方は吹き飛んだ。
歌人ではきつと詠めない、ひとりで
は決して詠めない短歌の数々が送ら
れてきたからだ。その素晴らしい
輝きを目にしたとき、僕はおそらく
誰よりも先にプロジェクトの成功を
確信した。

花巻北高等学校の皆さま、関係者の
皆さま、前代未聞の挑戦に巻き込んで
くれてありがとうございました。

木下龍也(きのした・たつや)

歌人。2013年に第一歌集

『つむじ風、ここにあります』を、
2016年に第二歌集『きみを嫌い
な奴はクズだよ』を刊行。

このほか、歌集に『オールアウン
ドユー』、『あなたのための短歌集』、
短歌の入門書『天才による凡人のた
めの短歌教室』や谷川俊太郎氏との
共著『これより先には入れません』
など著書多数。

2025年4月よりNHK Eテレ
「NHK短歌」選考者。

二席

爪痕のような光のつぶつぶを
耳を澄ませる静寂の夜

上の句 静岡県 Iwane
下の句 1年生 Y・K

上句の比喩も冴え渡っていますが、この歌の最大のポイントが「爪痕のような光のつぶつぶを」の「を」ですね。正しい文法で書くならば、この助詞「を」は「に」や「へ」になるはず。「爪痕のような光のつぶつぶに耳を澄ませる静寂の夜」ならスッと意味が通る。けれど、ここで組み合わせによる奇跡が起きていて「つぶつぶを」「耳を」となっている。どちらも「澄ませる」にかかっているんですね。つまり「静寂の夜」が「つぶつぶを」「澄ませる」「耳」も「澄ませる」と読める。詳しく言うとし、静かで寂しくなるほど周りには何も無い「夜」が曇りなく星を見せてくれるし、物音のしない「夜」が普段いるんな音を聞いていて「耳を」清らかにしてくれている。そんな歌に読めるんですね。短歌って「音」音しかないから、どの「音」も慎重に選ぶことになるんですけど、その「音」の重みがよくわかる歌。さらには一人で普通に作ったらなかなか置けない助詞の歌。(選定・木下)

三席

天漢に運命繋ぐカササギが
いつかわたしもとべるといいな

上の句 兵庫県 あおと
下の句 2年生 W・N

「天漢」は天の川のことですね。中国の牽牛織女伝説では、天の川に隔てられた男女を「カササギ」という鳥が橋を造って取り持つということになっているらしいです。二人の「運命」を「カササギが」「繋ぐ」。上句はそれが描かれている。そして下句は「わたしも」あの「カササギ」のように飛んで、誰かと誰かを繋ぐような存在になれば「いいな」ということが書かれているのだと思います。別々の上句と下句だったとは思えないほど一首として成立している。まるで「カササギ」に結ばれて運命的に出会った上句と下句だと思います。(選定・木下)

佳作

花巻より元気な声がスマホより
夜空がきれいな結構きれいな

上の句 奈良県 トコーさん
下の句 1年生 T・H

ベランダに出れば広がる星の世界
声を紡いで見よ冬銀河

上の句 岩手県 るるん
下の句 2年生 M・O

オリオン座みんなながめてたのしいな
孤独に寄り添う光頼もし

上の句 岩手県 高橋悠
下の句 2年生 R・T

クリぼっち星と語らう冷たい夜
空見上げればただ星一つ

上の句 岡山県 永崎将利
下の句 2年生 Y・T

首いてえ回してみたらみえた星
田んぼに揺れる蛍のひかり

上の句 岩手県 高橋響樹
下の句 2年生 K・M

初孫の笑顔が浮かぶアルタイル
萬吸い込む星のカービー

上の句 岩手県 菅藤誠
下の句 3年生 A・K

CC花巻賞

夜空見て星に願いをしないとね
地球を超えたフレンドシップ

上の句 東京都 いうい
下の句 1年生 Y・T

CC花巻賞 佳作

終わらない実験レポートオリオン座
思いやられるこれからのまなび

上の句 東京都 ふじおか
下の句 1年生 M・S

花巻北校賞

その向こう忘れがたき日輝けり
オリオン座の下 Shall we begin?

上の句 東京都 みどりのペンギン
下の句 2年生 H・A

人工衛星YODAKAを通じて
一つの短歌となった作品を
紹介いたします。

一部、上の句・下の句に重複がございます。
応募いただきまして「YODAKA」
に送ることが叶わなかった句を「おまかせ」
と承くたさいませ。

窓の外夜空の遠く浮く地球

夜空を駆ける星に願いを
上の句 橋まり 下の句 R・T

ランデブー想いを導く目印は

星降る夜に願いひそめて
上の句 田原 下の句 K・S

住み慣れた街の夜空を見上げれば

優しくほほえむ遠いひかり
上の句 きたり 下の句 Y・S

公園のフエンスの越しに風吹いた

星に届くようスキップをする
上の句 ながい 下の句 S・O

輝きは君が指さすはるか先

みんなでみよつぷネタリウム
上の句 じゅん 下の句 N・I

その光はどこへ向かうか天気輪

夜空見上げて語る思い出
上の句 小橋敦一 下の句 M・K

(Mオルンの星を愛でつつ紡ぐ音を

静けさ染みる星の瞬き
上の句 えんちも 下の句 M・K

花巻の希望たずさへ発射台

無数に広がる僕らの未来
上の句 2Shot 下の句 R・K

ぼくの名は星のとうんだ君の名は

暗き空には明るき星々
上の句 10510215area 下の句 A・U

大勢の夢は枯れ野を飛び立ちて

今夜の月も満月だったらな
上の句 東京スカイツリー 下の句 R・T

夜の星孤独引きあひ時を越え

宇宙は彼方果てしない広さ
上の句 たなかまん 下の句 H・O

星の夜未来を照らす夜鷹星

仲間と探した一番星
上の句 花巻リノちゃん 下の句 H・A

日常と夢とを繋ぐ星の空

暗い上空光り輝く
上の句 1050202a 下の句 K・M

三日月は誰かが食べた残りの月

三笠の月に似ているのかも
上の句 夢来 下の句 S・O

空仰ぎ一筋の光夕闇に

よそらに駆けゆけくきみの想い
上の句 OK 下の句 T・U

きつきつと輝いているピカピカと空

夜空に羽ばたけ未来の扉
上の句 ぶんか 下の句 A・T

友達と夜空に光る星を見た

闇にきらめく光の軌跡
上の句 とき 下の句 M・H

夜の空運が良ければ見える星

輝き放つ小さな希望
上の句 大倉翔平 下の句 M・S

ひらめいたよ空のほしよなごなの

無限の宇宙に想いを馳せて
上の句 上野美穂 下の句 Y・K

空見上げ故郷を思い願う星

あの子も今見る月と夜かな
上の句 関野中孝生 下の句 K・S

カシオペア想うあなたは遠くあり

光あふれる未来のしるべ
上の句 山本 下の句 R・Y

闇空に星見えぬとも雲が浮く

光る星より輝け夢よ
上の句 かわむらた 下の句 Y・O

はらり手に今夜も来たな冬の使者

花巻を照らす輝くYODAKA
上の句 松尾 龍依 下の句 T・T

可惜夜の光る望月ときめいて

瞬く星と共に見る夢
上の句 星川 下の句 M・Y

四季ごとに星座達が空を舞う

暗宇宙に恋する遠い君へ
上の句 人間観察15歳 下の句 K・Y

この星をきれいと思いがさげんだら

星の架け橋銀河鉄道
上の句 erna 下の句 A・U

空見上げ闇夜に光るミルキーウェイ
月と君重ね今宵も涙す
上の句 上野美穂 下の句 K・K

どこからもとどかぬ天井光る星

希望溢れる星空の下
上の句 のんちゃん 下の句 M・Y

星空は我が子の未来と同じ数

やつと触れる広い宇宙に
上の句 上野 下の句 R・H

宇宙へと翔ぶ音響け無限大

人間はボリス的動物である
上の句 Y・M 下の句 T・O

遠い昔遙か彼方の銀河系で

人のこころは夜空で共有
上の句 1010111 下の句 N・S

真つ暗な我が道照らす月光

ほつと息足を静めて
上の句 じゅん 下の句 S・T

ただの点可能性が詰まっている

寒さ乗越え駆け抜ける大空
上の句 みらいup 下の句 H・H

君のため大きな宇宙(そら)に響く声

みんなで行こう夜空ノムコウへ
上の句 だ 下の句 H・I

月をみてあの一文が浮かぶけれど

牛に踏まれてまれに死す
上の句 しそでまてむらな 下の句 R・N

オリオン座君と一緒になぞらせて

輝き照らす希望の星よ
上の句 瀧 下の句 K・S

黒色が優しく世界を包み込む
君への気持ちを流れ星に込める
上の句 1010111 下の句 A・T

青色と紫色の銀河系

空をわたるは流星群
上の句 安倍黒果 下の句 H・I

帰り道月の気配に空見上げ

目に見えぬとも輝く夜空
上の句 さとうあつう 下の句 M・T

ふと見上げ夜空に浮かぶ無数の星

月が照らした夢の続きを
上の句 あんぱん食入 放腫 下の句 K・Y

空見上げ星に願いを天の川

星の数だけ増えゆく後悔
上の句 はるまほ 下の句 S・M

1人では思い出せないことがある

白く染まりし空の色
上の句 いのち 下の句 K・A

昨日とは違う夜空と違つ君

夜空にきらめくひとつの光
上の句 仲川暁美 下の句 H・M

底冷えの間に身を置き光待つ

広がる空に夢を重ねて
上の句 さきひび 下の句 Y・H

見上げれば星が一面輝いて

夜空にかがやきつこまでも進め
上の句 あやね 下の句 S・T

たくさんのかがやく星は人のよつ

宇宙を介して繋がる心
上の句 haku 下の句 O・S

ねえ夜空、みそひともじつて知ってる？

夢追いかけてにじむイチバンボシ
上の句 高橋のぞみ 下の句 F・U

黒い海ちりばめられる時の石

胸の迷いも夜空に溶ける
上の句 Meac 下の句 S・I

めちや寒い夜空の下はめちや寒い

下から見るが横から見るか
上の句 のりこ 下の句 Y・U

坂超えて広がる星々冬の宵

手を伸ばすけど星は遠くて
上の句 うつこ 下の句 R・K

同じ空でこまでも続く星空に

人は夢見る夜空の向こうへ
上の句 みる 下の句 S・K

冬の夜の息より曇る遠き星

歩みし先に新たななる空
上の句 うつこ 下の句 M・T

秋の夜月見しながらもちたべる

夜空に上がる私たちの未来
上の句 横山朝子 下の句 K・A

黒の夜光る星たちよひよせる

明日も続く楽しい日々が
上の句 山中中樹 下の句 H・T

朧月いまかいまかとはる待てば

夜空に轟けぼけらの希望
上の句 めいけん 下の句 K・T

月明かり銀の道照らし夢の中

遠く離れても夜空は同じ
上の句 鹿兒島かなの便り 下の句 R・A

この羽できみのもとへと駆け抜ける

幾億年の星のつながり
上の句 ひたね 下の句 T・K

海超えてふるさと想い仰ぐ空

遠くへ願う夜空のもので
上の句 ちの 下の句 R・T

もう一度青いのちを燃やしては

真っ白い息夜空に一つ
上の句 在野まま 下の句 T・F

はれたひにふとほしそらをみあげたら

星の瞬きに心寄せて
上の句 加藤孝 下の句 K・F

漆黒に染まる中での宝たち

輝き永く僕らを照らす
上の句 あま 下の句 Y・Y

今日もまた夜空の下で星探し

夜空をわたる架け橋となれ
上の句 後藤大和 下の句 K・S

広き空こぶし花咲き友想い

宙舞うくONOKA 夜空をかける
上の句 かずさん 下の句 T・H

夜空にはいちまいの帆があるという

夜空見上げる肌に流星
上の句 月島理華 下の句 K・Y

星ひとつ落ちるころには人の影なし

夜空に輝く私の姿
上の句 直町輝生 下の句 A・S

溶む夜空満ちる星屑風止まり

夢の行方は一等星
上の句 Chirico 下の句 R・M

時越えて虚空に浮かぶ輝きよ

星はつかめずくうをみる
上の句 マツナカトシ 下の句 S・M

点と線繋がっている流れ星

夜空に浮かんだみんなの星
上の句 うんち 下の句 M・S

月と星空に煌めく光たち

学心の旅路果なき空へ
上の句 黒板清一 下の句 A・S

夏休み星空見上げ記録とる

夜空に広がる無限の旅
上の句 北田燕子 下の句 K・F

星空見上げ願いを込めた流れ星

天の川渡る銀河鉄道
上の句 hachiro 下の句 G・K

見上げれば春夏秋冬星めぐる

濃紺の空月白ひとつ
上の句 ネジツム 下の句 H・I

ぱうぱうと夜空にわたる流れ星

夜に輝く夜鷹の光
上の句 ひんば 下の句 H・T

見上げれば光の輝く星屑は

花巻の未来造つてこう
上の句 栗山 下の句 T・F

綺麗だな夜空はとつても綺麗だな

夜空へ逃げる自称進学
上の句 笑 下の句 Y・K

星満ちる空を夢見て科学館

きらめく夜空明るい明日
上の句 宮本隆邦 下の句 S・A

夜空見て思い浮かんだこと五文字で言ひよオリス座

あの星に指もつとくくか
上の句 北九州の大谷翔平 下の句 Y・O

夜の星ギラギラついているきれいだな

響きわたる星の笑い声
上の句 りん 下の句 Y・K

流れ星願い急いで消える空

ひとつひとつに願いを込めて
上の句 南里桜花 下の句 K・T

夜風そよぎ星のささやき届くかな

夜空を駆ける一筋の光
上の句 東真悟 下の句 K・T

花巻で友と見上げし広き空

夜空に輝く一番星
上の句 あやめ 下の句 T・O

暗き世界ひとつひらの光浮かびゆく

空を私を星がつなげる
上の句 さわ 下の句 A・O

寒い中手と手繋いだ帰りの道

星空広がるきれいな宇宙
上の句 ちよむ 下の句 I・K

夜空の先眺見た日絶景かな

夜空のムウにある彼方へ
上の句 zeno 下の句 S・S

雨上がり優しく照らす秋の月

眩く光る星屑たちよ
上の句 ひかり 下の句 N・S

七月に君に愛たい馳せる思い

願いを乗せて流星ひとつ消えゆけり
上の句 香山あづさ 下の句 M・O

暮夜の中きみとながめたアルタイル

光る夜空すくく綺麗
上の句 スベカ 下の句 K・I

夜の空に小さないのちかがやくよ

幾億の星に願う我が思い
上の句 ゆうり 下の句 H・O

手を伸ばす輝く星を手の中心

天の川超え誰を待つのか
上の句 ほがら 下の句 S・T

美しいあなたの瞳まるく星

夜空に輝く世界の平和
上の句 よーく 下の句 N・F

仄白き無窮の宇宙(そら)を君よ行け

夜風に乘せて君への想い
上の句 はなまりん 下の句 R・U

流れ星叶えてくれる？願い事

夜空の向こうに叫ぶ約束
上の句 可愛くて筆一めた 下の句 F・K

空見上げあれかこれかと光追ひ

宙返り何回も無限大
上の句 えいこ 下の句 Y・T

くもりそらほしがみえずにかなしいな

永遠(とわ)に輝く青春の記憶
上の句 銀公 下の句 M・S

星空に願いをこめて宇宙旅行

黒の大河に光るミチシルベ
上の句 佐久間 下の句 K・I

漆黒の中に煌めく星々の

雪国覆うムーンライトが
上の句 ひめ 下の句 H・T

暗闇に星を数えて待つている

星の隙間にだけかはいるのか
上の句 麻倉ゆえ 下の句 K・T

空夜ささ友に歌えは鮮彩に

君の笑顔は星よりあかるい
上の句 きなこの畑 下の句 Y・K

ざんぎりりちらはるほつせきはてしなく

宇宙で見たも地球は平面
上の句 杉本町と豊中のいぬ 下の句 Y・H

天の川きらり輝く七夕に

広い宇宙にちいさな私
上の句 西郷隆盛 下の句 Y・S

星空に夢みる彼らについて

未来を夢見旅を続ける
上の句 尾沢理美 下の句 K・O

見上げたらいろんな星座み一つけた

ともにひかるはよだかの星よ
上の句 タビオカホタル 下の句 K・H

空見上げまんでんの星輝いた

天井開けて粉雪舞い込む
上の句 天然記念物 下の句 R・O

夜空見て暗い空に星光る

煌めく星に語りかける
上の句 佐々木 下の句 S・K

星屑を溢して出来た夜の海

辺りの黒を星が打ち消す
上の句 Chieppane 下の句 T・O

凍星は闇夜も届も導きて

広い夜空でただ光る君
上の句 Ruttsuko 下の句 H・K

満月に過すすのだだ餅の音

風に揺られて星がまたたく
上の句 バレー大好き 下の句 M・K

見上げれば夜空の星につつまれる

星のさざめき君と聞きおり
上の句 かほす 下の句 T・U

キーボード多額の支払い未払いだ

夜汽車で巡る星降る道
上の句 くりぬき 下の句 S・K

夜の空響き渡るわ星の声

暗闇でこそ君は輝く
上の句 アルテミス 下の句 E・K

星の光に心惹かれる

星の光に心惹かれる
上の句 福瑞 下の句 K・S

眼鏡越し星影冴えてしみじみと

君とみていたあの日の彗星
上の句 阿智乃桃花 下の句 A・T

満月の夜月よりこつち星を見て

孤独な空に勇気をもらう
上の句 イヌビー 下の句 Y・T

ふゆのそらさむさにまげすほしたちが

星屑の心とつみにくいよだか
上の句 三ツツ 下の句 M・K

星あかりふと思ひ出す父の笑み

夜空を探したバレットの上
上の句 アクアマリ 下の句 M・K

蒼き星虹に煌めく人の里

YOOKAを想いて夜空を眺める
上の句 はじめん 下の句 N・K

綺麗なそらもう一度見たいあの景色

誰が送った祈りの使者か
上の句 翔太 下の句 K・I

冬の空はれわたる空は色濃くて

夜空の向こうのよたかを思う

上の句 子 下の句 S.O

オリオン座自由研究おいこんだ

期待に胸を膨らませる

上の句 ままはなく 下の句 K.T

星見上げ静けさを越え夢の果て

夜空の向こうに夢を描く

上の句 ゆー 下の句 Y.M

星降る夜君の瞳の輝きは

一番星へ一直線

上の句 いおり 下の句 A.K

暗い空散りばむ光の宝箱

明日を信じて我が道をゆく

上の句 ちのびをみるさかひ 下の句 Y.F

大三角届く光は何年後

魅惑の星に喉詰まらせて

上の句 煙 下の句 H.T

人と同じく情や念を持つ星情や念に寄り

願い届けば涙も星に

上の句 曇谷 悠希 下の句 Y.Y

白い息導き消えて見えた星

宇宙の果て光る星を見る

上の句 宇宙の果て 下の句 Y.H

ひとり道くらの夜空とこの町

今も変わらず照らしてくる

上の句 平野 下の句 S.K

空見上げ肩を並べて見る星は

おいかけおいかけまだ知らぬ君

上の句 Yume 下の句 M.T

澄みし風寝転ぶ芝生枯木星

いかに久しきものとかは知る

上の句 39- 下の句 S.I

明日もさ同じ夜空が見えるかな

空に輝く数多の星

上の句 松 下の句 H.I

白い息ふつと見上げた星空に

夜空を見れば思い出すあの日

上の句 ひまわり 下の句 M.T

ひとこの言の空がどこまで落ちるより

つえをみあげてあまきれいだな

上の句 宇宙 下の句 S.A

あの星空きらきら輝くあなたにみえる

明日は雪が積もるかなあ

上の句 H.K 下の句 K.K

都会はねひかりがいっぱい見えにくい

まばたきすればみんなをみてる

上の句 すけ 下の句 K.S

夜空よりあの人の夢降り来たる

きれいなその見上げるよ

上の句 奈良 薫 下の句 K.I

帰り途見上げた空は暗く遠く

キラキラ光るたぐさんの星が

上の句 はなびり 下の句 S.F

君の声見上げてみればきぼうの光

星の瞬き夢を導く

上の句 星野 海 下の句 T.T

新月のあまたに広がる星屑を

みんなをみてるお空の星よ

上の句 宇宙 下の句 K.K

見上げると光が灯り輝いて

夢の行方は一等星

上の句 佐藤 結衣 下の句 R.M

星空でスキップしながら明日を待つ

静寂を抱く無垢な夜空

上の句 ちやん 下の句 R.I

目を瞑り満天の夢を思うかな

冷えも忘れて眺むるこのよ

上の句 西野 なこ 下の句 N.G

流れる星葉えてくれる？願い事

歩みを進める足音響く

上の句 可愛くし 率いめた 下の句 M.M

よるのそらきらりとひかるいっとうせい

故郷恋しく独り観る空

上の句 人工 智 下の句 A.M

広大な夜空の中に流れ星

いっつも変わらぬ特別な光

上の句 ちのび 下の句 M.A

流れ星よく見てみれば飛行機か

夜空に光る無数の星

上の句 通りすがりのわたあめ 下の句 T.S

会いたくて見上げてみればオリオン座

宝石光る部活終わりの空

上の句 星野 海 下の句 M.K

ひとりの道くらの夜空とこの町

君と築いたその架け橋

上の句 平野 下の句 R.T

静かさに星の音聞く夜の風

夜空に浮かぶ二つの輝き

上の句 エリザベス 下の句 M.O

天の川流れるように時が過ぎ

これから学校頑張りますよう

上の句 河村 悠希 下の句 T.S

星空に浮かぶ月影昔より

夜空に光るみんなの希望

上の句 オレンジ 下の句 M.I

星みえる夜空はとてきれいな

静寂の中で夢を紡ぎぬ

上の句 花 下の句 A.T

星の真ん中を見ればあふれる

自分信じて宇宙のあなた

上の句 小林 真貴 下の句 S.A

冬の夜に心が和む友の声

輝く宙に吐く息のぼる

上の句 八木 下の句 M.T

球場の夜空に映えるホームラン

君の瞳と宝石の空

上の句 くるみ 下の句 M.K

戸をあけて見上げば灯籠げに

静天の夜空かかる天の川

上の句 鹿野 たこ 下の句 H.F

空見たらキラキラ光るお星さま

そのむこうにひろがるせかい

上の句 たかし 下の句 M.R

山村は明かりちらほら金星や

暗闇のなか星座をなぞる

上の句 安藤 真知子 下の句 Y.Y

空をみれば広がる無限の宇宙

夜鷹が握る未来の切符

上の句 C.C 64 下の句 G.O

なんだあれきらきら光る星たちか

ほくらをつなぐ大きな夜空

上の句 本能寺のあの空の夜 下の句 K.K

太陽が青い光を照らします

願いを込めて未来を描く

上の句 ASMSMS 林 下の句 R.T

発射台カウントダウン厳かに

夜空に光るまばゆい光

上の句 255haji 下の句 H.I

綺麗だな夜空はとつても綺麗だな

貴方も同じ星を見ている

上の句 笑 😊 下の句 Y.A

わたしたちを優しくてらす赤い月

空に届けと電波に乗せて

上の句 たると 下の句 Y.K

星降る夜君の瞳の輝きは

一番星へ一直線

上の句 いおり 下の句 A.K

満天の星と光るは僕らの街

願いを持って流れ行く

上の句 ぼりっしゅ 下の句 Y.Y

宇宙から星の光を受け続け

無限の星に思いめぐらせ

上の句 りゅうや 下の句 Y.A

見上げれば君との記憶浮かび消え

持つのは希望自分を信じて

上の句 にーだ 下の句 R.T

星空に銀河鉄道走らせて

新たな道が輝く時

上の句 伊藤 真 下の句 M.S

僕たちが歩む暗闇を星たちが

星かがやいて風の声する

上の句 碧音 下の句 R.H

九時間後の君に短歌を放つ指先

時が過ぎても残る思ひ出

上の句 渡草 下の句 N.F

静かな夜空描く軌跡でどこまでも

夜空がすくくきれいです

上の句 宙平 (ちゅへい) 下の句 R.S

信じ来し明日を待ちつつ夜空かな

見上げた彼方無数の希望

上の句 htols 下の句 I.T

名を捨てて気高さ宿る空を征く

天を仰げば希望のかけら

上の句 星鼓 634 下の句 H.S

シヤラシヤラと聞こえないかと星の声

思いとこく幾干を越えて

上の句 ちい 下の句 M.K

オリオン座みんなでながめてたのしいな

満月夜空に希望を放つ

上の句 高橋 悠 下の句 A.K

僕たちが歩む暗闇を星たちが

願いを込めて未来を描く

上の句 碧音 下の句 R.T

空見上げ夜空に浮かぶ星々の

星を数えて夢探す旅

上の句 あじが 下の句 E.T

見上げては沈む気持ちを奮い立て

流れ星みて請う君のそば

上の句 田舎 者 下の句 K.T

牙ゆる夜母と見上げた星空を

暗い心も消す空模様

上の句 ちんぷん のゆゑ 下の句 A.F

その向こう忘れがたき日輝やけの

美しくすぎた星空のように

上の句 みのり (みのり) (ハ) (ハ) 下の句 K.S

嘘みたいな星の名前おしえるよ

綺麗な夜空に星々が散る

上の句 シロシロ 下の句 K.S

星満ちる空を夢見て科学館

ともに見上げたひとすじの星

上の句 宮本 隆邦 下の句 A.M

宙の奥光る希望に手を伸ばす

夜空を見上げ故郷を思う

上の句 宮本 隆邦 下の句 R.T

空見上げあれかこれかと光追ひ

消えぬ光が道を照らす
上の句 えいじ 下の句 Y・T

くもり明けまんてん星空光つてる
果てない空に心を遊ばす
上の句 たごや 下の句 R・Y

走り出す夏の夜風と星の下

夜空に輝くロケットの願い
上の句 こまがー 下の句 M・O

仄白き無窮の宇宙(そら)を君よ行け

思いよ届け未来の希望
上の句 はなりのん 下の句 H・K

さむい日のよそらのしたではちみつを

私も星になつちやおうかな
上の句 世界(いけめん)のくみ 下の句 Y・T

晴夜の日夜空にきらめく星屑が

月の位置しか分からぬ夜空
上の句 あぶか 下の句 K・S

ひと知れず哀哭の夜走りゆく

心に駆ける明日への希望
上の句 carols 下の句 Y・S

流れ星最初に浮かぶキミの顔

光辿れど終わり無し
上の句 へんせせん 下の句 K・I

星空に願いをこめて宇宙旅行

空に流れる希望のきらめき
上の句 佐久間 下の句 Y・H

漆黒に輝き放つ星々の

広がるそらに想い重ねて
上の句 宇宙(うろ)のおひさん 下の句 Y・Y・K

空を見てあの星さがす一番星

ほつとひと息足を静めて
上の句 渡辺龍雄 下の句 S・T

望月の明るさ残る夜空かな

みんなで行こう夜空ノムコウへ
上の句 Kurojobo 下の句 H・I

七の日に大粒の涙きらめいて

輝き照らす希望の星よ
上の句 ミルク(ミルク) 下の句 K・S

漆黒のキャンバス浮かぶ星砂は

君への気持ちを流れ星に込める
上の句 宇野風塵 下の句 A・T

澄みし風寝転ぶ芝生枯木星

夜空を見れば思い出すあの日
上の句 39 下の句 M・T

白い息導き消えて見えたる星

月舟に乗り夢路を渡る
上の句 fairs 下の句 M・T

しらぬ君銀河浮かべて焦がれ待ち

場所は違えど夜空は同じ
上の句 うなひ 下の句 K・S

夜空見るとキラキラ光る満月が

友へ帰る夜の道を
上の句 みみん 下の句 Y・M

夜空舞う星々たちが輝いた

煌めく星と私の思い
上の句 C 下の句 R・N

夜空はね無限大だよヒーカピカ

わたしと星の架け橋とならん
上の句 雪華 下の句 W・E・S

ひとの言う空がここまで落ちるより

空をわたるは流星群
上の句 ウォンボ 下の句 H・I

星々の声に呼ばれて目を覚ます

夜空に輝く希望の光
上の句 石旅(いしり) 下の句 T・N

満月の夜月よりこつち星を見て

「スモロジー」に抱かれた夜鷹
上の句 イヌジー 下の句 G・O

夜空見上げ満点の空星月夜

夜空を仰ぎまた笑つ月
上の句 かまけけ 下の句 A・O

秋の夜空にかがやくほうきぼし

君とふたりで歩む夜空
上の句 うる 下の句 H・S

曇り空居所感じるばやけ星

星下に集つ目映きころ
上の句 1170 下の句 S・T

寒空の雲居にはせるこのおもひ

星降る空に願いをかけて
上の句 令和の舞(れい) 下の句 R・K

星見上げ静けさを越え夢の果て

暗い上空光り輝く
上の句 ゆー 下の句 K・M

星空の下のデイスタンズ燃え上がり!

夜空を駆ける星に願いを
上の句 ケーシー 下の句 R・T

心惹く謎の衣をまとうそひ

星降る夜に願いひそめて
上の句 あ 下の句 K・S

冬の空はれわたる空は色濃くて

宇宙旅立てヒカピカよだか
上の句 子 下の句 G・A

月冴えて雪野を照らす静寂よ

夜空の回ころに夢を描く
上の句 光合(ひかり)のチオ(チ)上(上)浦(浦) 下の句 Y・M

綺麗なそらもう一度見たいあの景色

無数の星に夢をみる
上の句 翔太 下の句 M・T

星々が夜空に光りとどきそう

夜空に光るみんなの希望
上の句 あかひたな 下の句 K・I

舞を舞い神に捧げよ夜神楽よ

静寂の中で夢を紡ぎぬ
上の句 榎(え) 下の句 A・T

星見上げ猫と眠つた寒い夜

輝く宙に吐く息のぼる
上の句 カボチャ(かぼ) 下の句 M・T

天の川何回まわる分らない

君の瞳と宝石の空
上の句 ASMA 下の句 M・K

惑星は天の光を作ります

孤独に寄り添つ光頼もし
上の句 ASMA 下の句 R・T

冬の夜瞳に映る万華鏡

静天の夜空かかる天の川
上の句 みみん 下の句 H・F

光さし星降る夜に待ち合わせ

持つのは希望自分を信じて
上の句 ちんちん 下の句 R・I

車窓越し夜空を見上げ思い馳せ

優しくほほえむ遠いひかり
上の句 アキアカネ 下の句 Y・S

母願うあなたの道が輝けと

夜空見上げて語る思い出
上の句 双子(ご) 下の句 M・K

夏の夜空に流るる天の川

遠くへ願う夜空のもとで
上の句 H 下の句 R・T

星みえる夜空はともきれいかな

宇宙は彼方果てしない広さ
上の句 花 下の句 H・O

菓子づくりまがすきなこ星月夜

夜空に羽ばたけ未来の扉
上の句 としる 下の句 A・T

夜祈る輝く空とYODAKAの星

闇にきらめく光の軌跡
上の句 kee 下の句 初

寒い夜夜空を見上げ光るもの

無限の宇宙に想いを馳せて
上の句 はつば 下の句 H・K

星涼し宇宙(そら)の果てへと夢馳せて

あの子も今見る月と夜かな
上の句 A V a k a i 下の句 K・S

お月さま本当にウサギいるのかな

光る星より輝け夢よ
上の句 たつき 下の句 Y・O

帰り道何気ない日の星空を

瞬く星と共に見る夢
上の句 星 下の句 M・Y

宇宙船流れ流され迷い星

天を仰げば希望のかけら
上の句 丹波林 下の句 H・S

さらさらと見上げて願う流れ星

明日は雪が積もるかなあ
上の句 なにぬねの(なに) 下の句 K・K

寒夜空遊具の前で輝る君

星の瞬き夢を導く
上の句 けんちゃん 下の句 T・T

煌々と心に映る真珠星

静寂を抱く無垢な夜空
上の句 あさひ 下の句 R・I

人と同じく情や念を持つ星情や念に寄り

冷えも忘れて眺むることよ
上の句 曇谷(曇) 下の句 N・G

星煙上げ銀河鉄道摩きゆく

ながれるほしはずとみていたい
上の句 おおす(お) 下の句 N・A

夜の海流るる星よ幾星霜

願いをひとつ胸に抱きけり
上の句 みけ 下の句 Y・H

白い息ふつと見上げた星空に

夜空に光る無数の星
上の句 びすけ 下の句 T・S

満天の星浴び思ふ無窮の道

宝石光る部活終わりの空
上の句 かむすけ 下の句 M・A

流星に逆らつて往けよだか、よだか

歩みを進める足音響く
上の句 佐藤西 下の句 M・M

静かさに星の声聞く夜の風

宇宙に恋する遠い君へ
上の句 エリザベス 下の句 K・Y

帰宅後に空を見上げる星しずか

月と君重ね今宵も涙す
上の句 あー(あ) 下の句 K・S

青白い光を放つ月は今日も

巡る想いをこの歌にのせ
上の句 影山菜々美 下の句 S・K

今の空過去の星影照らさつ

同じ夜空でつながっている
上の句 カストロ 下の句 Y・T

暗がりに無数の灯ひしめきて

誰かも見てる一番星
上の句 タツモト 下の句 Y・K

冬の夜に心が和む友の声

束ねつながらる天の閃き
上の句 八木 下の句 T・K

冬の夜に心が和む友の声

夜空に浮かぶはあまたの生命
上の句 八木 下の句 H・K

闇に星つまさきふわり夜空へ

萬吸い込む星のカービィ
上の句 宮里未知 下の句 A・K

夜の空浮かぶ月みて微笑んだ

やっと触れる広い宇宙に
上の句 八重(や) 下の句 R・H

夜空にはキラキラ光るスターライト

人間はポリリス的動物である
上の句 富田駿太郎 下の句 T・O

友達ときれいな夜空見上げると

故郷恋しく独り観る空
上の句 あいうえお 下の句 A・M

むこうには明日がもう待っている

いつも変わらぬ特別な光
上の句 look 下の句 M・A

七夕の夜に世にでたる宇宙人

星の囁き永久(とわ)に寄り添う
上の句 かに座(かに)のおはな 下の句 M・T

暗い道暗い夜空と想うもの

夜鷹が握る未来の切符
上の句 ほしのの 下の句 G・O

明日もさ同じ夜空が見えるかな

夜空に光るまばゆい光
上の句 北川(きた) 下の句 R・I

澄みわたるインディゴの空ノスモ感じ

空に届けと電波に乗せて
上の句 北川(きた) 下の句 Y・K

澄む夜空散つた星々の宇宙飛行

思いとく幾千を越えて
上の句 鉄分(てつ) 下の句 M・K

煌めいて淋しさ照らす青い星

満月夜空に希望を放つ
上の句 稲荷 下の句 A・K

太陽が青い光を照らします

願いを込めて未来を描く
上の句 ASMA 下の句 R・T

以上、307首

「YODAKA」の旅路に願いを込めた UCHU DARUMA

「UCHU DARUMA」のコンセプトは“Space is the Limit”
“Sky is the limit”という言葉がありますが、私たちはその先の宇宙を目指します。空の向こうには
限りない可能性が広がっています。UCHU DARUMAには、その無限の広がりを感じていただきたい
という願いが込められています。また、UP花巻の取り組みの成功と、人工衛星「YODAKA」の無事
な旅路を願って、縁起物として親しまれてきた達磨(だるま)がモチーフに選ばれました。



「宇宙を旅したプレート」

UCHU DARUMA の“目”に使われているアルミ板は、国際宇宙ステーション(ISS)の船外
実験プラットフォームで約10か月間、宇宙環境にさらされた実物です。ISSは地上約400km
上空を秒速7.8km で移動し、約90分で地球を1周しています。
宇宙ではマイナス150度からプラス120度という最大270度もの温度差が発生する過酷な
環境ですが、このプレートはそれに耐え抜いた「宇宙を旅した素材」です。



伝統が宇宙と出会う新たな挑戦

「UCHU DARUMA」は、合同会社
SPACE VALUE スペースバリュー Space BD
株式会社による企画のもと、花巻市
を拠点とする伊藤染工場で染め
上げられた布を用いて、イタリア
と日本の素材を融合させたブランド
「renacnatta」を展開する株式会社
Dodici: 大河内 愛加さんのデザイン
ディレクションにより制作されました。
本染めの伝統技術と最先端の
デザインが見事に融合した、花巻
の文化と宇宙の出会いを象徴する
作品となっています。





昭和を感じられる場所♪



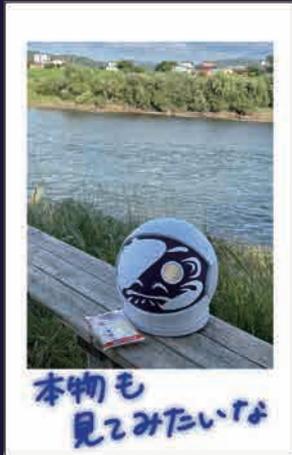
気持ちいい～



のどかだな～



お餅が入ってる
あんぱん! オススメ



本物も
見てみたいな



記念に一枚



こんなところに
住んでたんだー

山の駅・昭和の学校

花巻温泉

白居城野運動公園

花巻駅

なばんプラザ

高村光太郎記念館



DRIVE
in 花巻



展示されたんだー

オリオンパーク

ジョパンことカクパネルラ

宮沢賢治記念館

宮沢賢治童話村

イギリス海岸

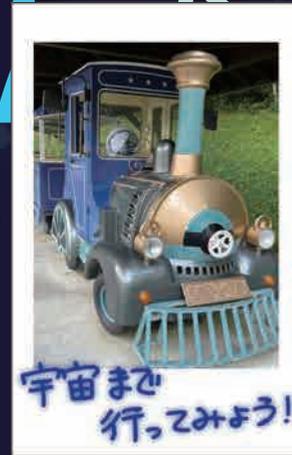
マルカンビル

花巻駅

DARUMA DRIVE
in 花巻



10段巻
ソフトクリームがおすすし!



宇宙まで
行ってみよう!



何を注文
しようかな?

『花巻スペースプロジェクト「UP花巻」』
プロジェクトオーナー
合同会社SPACE VALUE 代表社員

安藤修一さん インタビュー



「プロジェクトの効果」

JAXAへ行ったり、東京大学へ行ったり、宇宙科学技術連合講演会に参加したりして、学校の中だけでは見ることができない、経験できないことができたというのは大きな体験だと思っています。大学受験だけを考えて高校生活を送るのではなく、大学や研究機関の中を垣間見ることができた、いろんな専門家との関わりを持てたというのは、高校卒業後に目指すものが形になって見えてくるのではないかと思っています。それによって経験したひとりひとりの内面に変化が表れてくると考えます。

「なぜ宇宙だったのか」

日本にはたくさん素晴らしい技術があります、新しいイノベーションを起す人材は、既存の学校教育だけでは育ちにくいと思います。付加価値を持って世界に打って出られる人材を育てるには、いろんな体験が必要だと考えます。学んできたことを活用して新たな付加価値を生むために、私が携わってきた半導体をはじめとした最先端技術が生きる新しい分野、広い視点を育める宇宙をツールとして考えました。

なにより花巻は高村光太郎と宮沢賢治を通して宇宙には縁があると思っただのです。



合同会社SPACE VALUEについて

SPACE VALUEは、「×宇宙で花巻をワクワクさせる」をミッションに、花巻の魅力を宇宙をテーマにして発信する花巻発の企業です。『花巻スペースプロジェクト「UP花巻」』を企画し、人工衛星の開発・打上げプログラムと、地場産業と宇宙を掛け合わせ、新商品・サービスの開発を目指す地場産業プログラムを推進しています。

『花巻スペースプロジェクト「UP 花巻」』
プロジェクト運営企業
Space BD 株式会社 代表取締役社長

永崎将利さん インタビュー

本プロジェクトは、安藤さんが抱く、故郷と次世代への純実な願いに端を発しています。Space BD はその志に共鳴し、共に歩ませていただいたことを光榮に存じます。

宇宙に挑むことは、いかなる動機であっても未知への探求に他なりません。前例のない問いに対し、自ら考え、試行錯誤を繰り返す。その営みこそが、変化の激しい社会を生き抜く力そのものになると信じています。

このプロジェクトを通じて、関わった皆様の心に何らかの気づきが芽生えていれば、私たちにとってこれ以上の喜びはありません。



おわりに

花巻市民として、また花巻北高校の卒業生としてこのプロジェクトを追う中で、宇宙という存在が決して遠い世界のものではないと感じました。地方に住みながら宇宙開発に関わることができるといふ事実、そして宇宙ビジネスが想像以上に幅広い分野に広がっていることに、驚きと可能性を感じています。こうした体験を、ここ数年の花巻北高校の生徒たちが当たり前のように重ねてきたことを、正直うらやましくも思いました。

高校生というと、どうしても同世代の限られた世界の中で過ごしているイメージを抱きがちですが、本プロジェクトでは、大学教員の話聞き、研究に携わり、開発現場を見学し、学会で発表するなど、社会と直接つながる経験が積み重ねられていました。特に印象的だったのは、人工衛星ビジネスを題材にしたビジネスゲームを通して、スタートアップの視点を体験できていた点です。これまでも多くの卒業生がベンチャーやスタートアップの世界で活躍してきましたが、こうした実践的な学びを経た生徒たちが、今後さらに多方面で注目される存在になっていくことを期待しています。STEAM教育が注目される今、机上の学びにとどまらず、現実の社会や世界と接続する教育は、これからの時代に欠かせないものだと感じています。

花巻から始まったこの挑戦が、次の世代へと受け継がれ、さらに広がっていくことを願いながら、本書の締めくくりとしたいと思います。（北山公路）

HANAMAKI SPACE PROJECT

UP花巻

[企画・監修]
合同会社SPACE VALUE

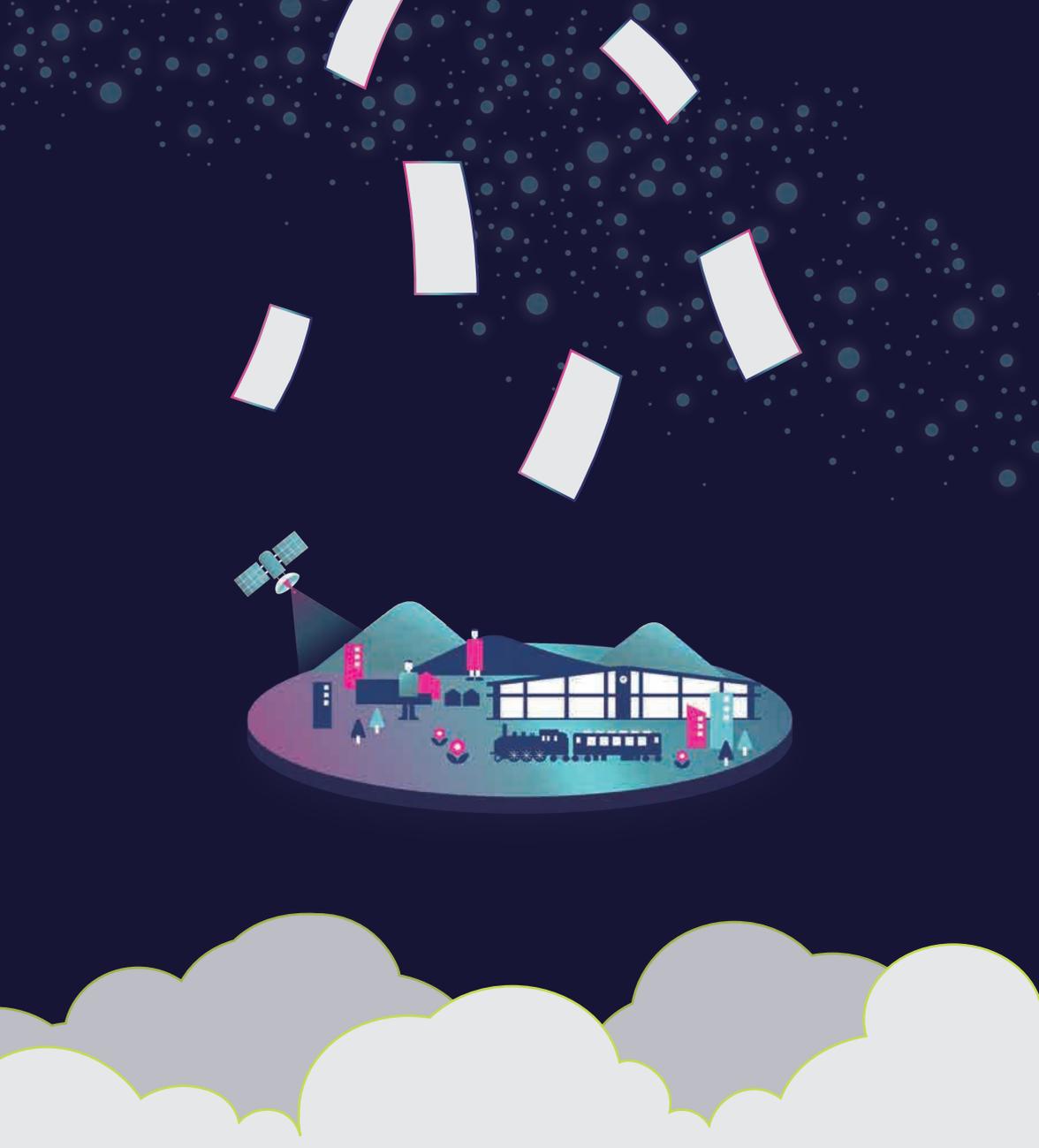
[企画・制作]
Space BD株式会社

[ライター]
・北山公路(オフィス風屋)
フリーエディター、ライター。
「父よ、ロンググッドバイ」盛田隆二(双葉社)、「場のデザインを仕事にする」ツクルバ(学芸出版社)、「心で触れるボディワーク」鎌田麻莉(BABジャパン)、「おいしいヴィーガン パイ&キッシュ」阿部静(双葉社)などをプロデュース&編集。「マルカン大食堂の奇跡」(双葉社)、週刊金曜日に「さまざまなわたし」ルポ連載など執筆。
その他、自治体や企業、団体のプロモーションツールディレクションや制作に従事。「花巻北高80周年記念誌」副編集長、「花巻北高90周年記念誌」編集長。

[スペシャルサンクス]
本書またはプロジェクトの推進にあたり、インタビュー・コメントをいただきました、川村先生、須川先生、佐々木先生、講演会を実施いただきました、金井宇宙飛行士、学習院大学小塚教授、短歌の品評およびメッセージをいただきました歌人 木下さん、UCHU DARUMA作成にあたりご協力をいただきました伊藤染工場さん、大河内さん、本プロジェクトには欠かせない衛星の開発を行っていただきました、アークエッジ・スペースのみなさま、最後に、本プロジェクトの主人公である花巻北高等学校のみなさまのおかげで多くの実践的な学びの場を準備することが出来ました。心より、ありがとうございました。

『花巻スペースプロジェクト「UP花巻」』は無限の可能性をもっている「宇宙」の力で花巻を盛り上げたい、そんな想いから2021年に発足した、合同会社SPACE VALUEを中心とした民間プロジェクトです。

将来の花巻そして日本を担う人材育成を目指し、高校生による人工衛星のミッション検討から実行、そして宇宙を使った地域活性化など様々な宇宙関連の取り組みを進めています。



HANAMAKI SPACE PROJECT

UP花巻